

第4回 補綴歯科臨床研鑽会

プロソ'18

インプラント治療における
審美修復の *Outcome*

プログラム・抄録集

会 期：2018年11月18日（日）

会 場：日本歯科大学生命歯学部・富士見ホール

大会長：渡邊 文彦

（日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座）

会場アクセス

日本歯科大学生命歯学部

住所：東京都千代田区富士見 1-9-20

交通機関：

JR 利用の場合

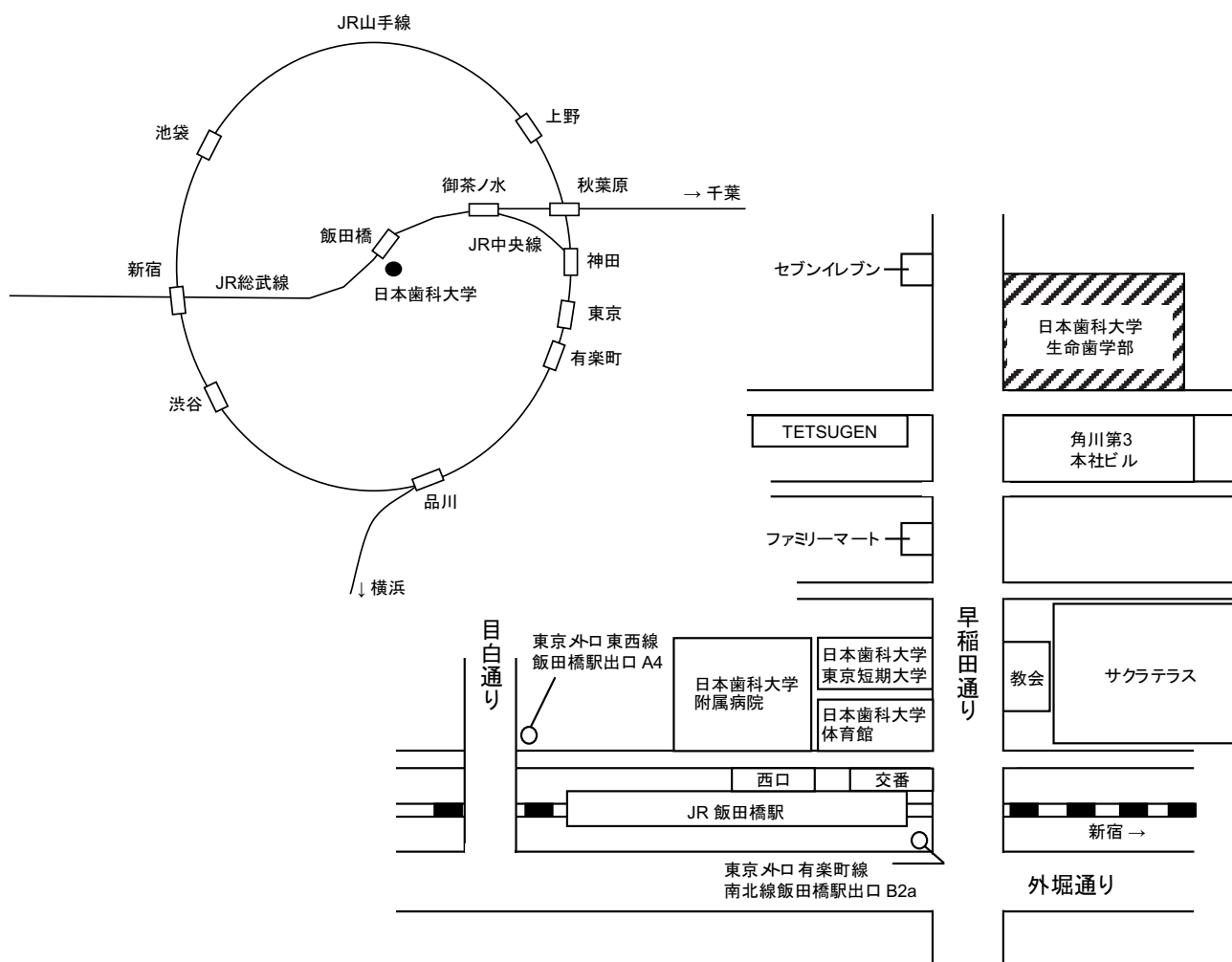
総武線 飯田橋駅下車（西口）

地下鉄利用の場合

東京メトロ東西線 飯田橋駅下車（飯田橋交差点方向出口 A4）

東京メトロ南北線・有楽町線 飯田橋駅下車（神楽坂下方面出口 B2a）

都営地下鉄大江戸線飯田橋駅下車（B2a）



補綴歯科臨床研鑽会プロソ' 18 の開催に際して

公益社団法人日本補綴歯科学会
理事長 市川哲雄

公益社団法人日本補綴歯科学会補綴歯科臨床研鑽会プロソ'18 が 11 月 18 日（日曜日）、日本歯科大学新潟生命歯学部教授の渡邊文彦先生を大会長に日本歯科大学富士見ホールで開催されます。本プロソをご準備いただいた渡邊文彦大会長、上田一彦実行委員長をはじめ関係各位に心より感謝申し上げます。本研鑽会は、昨年より毎年開催になり、本年度で 4 回目となります。

今回のテーマは、渡邊文彦先生のご専門であり、多大な貢献をなさっている分野でもあるインプラント補綴です。そのなかでも渡邊先生ならではの高いレベルでのインプラントによる審美修復を目指すための研修と研鑽の場になっており、この分野のフロントランナーの臨床家 4 人をお招きし、本学会の臨床領域の将来を担う若手大学人 4 人とコラボしたシンポジウム 2 つが用意されております。インプラント治療は、より高いレベルでの咀嚼機能回復を目指して開発されたものでありますが、今の **osseointegration** 型のインプラント治療が始まって半世紀以上が経過し、機能だけでなく審美性も高いレベルを追求する時代になっております。そのためにはより **interdisciplinary** な知識と技術を必要とするわけです。まさしく、プロソをスタートさせた目的であるカッティングエッジの補綴臨床の研鑽、より高いレベルの補綴歯科治療を志す若手の補綴臨床の研鑽の場となっております。今期私が掲げたキーワードの「補綴の矜持」としての審美性の高いインプラント治療を研鑽していただければと思っております。

本研鑽会は、交通の便のよい東京飯田橋が会場であり、補綴歯科専門医、専門医を目指す方々の研鑽、情報交換の場だけでなく、会員、非会員を問わない開かれた会です。昼食時には、ランチを取りながらの器材展示、情報交換も用意されており、非常に魅力的な会になることを確信しておりますので、是非ともより多くの方々に参加していただけることを期待しております。

ご挨拶

公益社団法人日本補綴歯科学会
第4回補綴歯科臨床研鑽会 プロソ'18
大会長 渡邊文彦

この度は、2018年11月18日(日) 日本歯科大学生命歯学部 富士見ホールにて日本補綴歯科学会 補綴専門医臨床研鑽会「プロソ'18」を開催させていただくこととなりました。プロソは2014年、2016年、2017年と過去3回の開催がなされ今回で第4回目となります。本臨床研鑽会は補綴歯科専門医ならびに、その取得を目指す会員を対象とした専門医研修会です。本研鑽会は臨床治療技術習得に特化した重要な一端を担っております。

今回のメインテーマは「インプラント治療における審美修復の **Outcome**」と題しインプラント治療について、特に審美修復にフォーカスをあてこの分野をリードする我が国のトップランナーの臨床家をお招きし、2つのシンポジウムを開催することとなりました。硬・軟組織と顎機能を考慮した口腔インプラント治療は質の高い審美、機能回復と共に長期間の良好な予後を獲得できる事は確実となっており、医療従事者もまた受診患者も周知のことです。そのため今日、インプラント治療はインプラント埋入条件、ティッシュマネジメントの環境整備の重要性が認識されてきました。このため口腔インプラント治療には基礎、臨床における深い知識と高い治療技術、さらに包括的な治療技術が求められており、益々高度な知識と技術が我々に求められます。

一方、歯冠修復材料、接着材料の開発、またデジタルソリューション、CAD/CAMが導入され、これらの情報や導入も必要となってきました。日本補綴歯科学会はこれらインプラント治療における高い技術の習得と研究を進め、学会会員の皆様にこれを伝え、国民へ適切な医療を提供する責務があります。

多くの会員の皆様にご参集頂き、最先端の補綴臨床を研鑽することで日々の診療の質の向上にお役立て頂ければ幸いです。

第4回補綴歯科臨床研鑽会 プロソ'18 タイムスケジュール

メインテーマ：「インプラント治療における審美修復の Outcome」

会場：日本歯科大学生命歯学部 8階 富士見ホール

10:00 ~ 10:10 開会式 挨拶 渡邊 文彦 大会長
市川 哲雄 理事長

【シンポジウムⅠ】 審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件

座長：河相 安彦 先生 専門医制度委員会委員長

10:10 ~ 11:10 審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件の考察

丹野 努 先生 (医) ゆたか会 丹野歯科医院

11:10 ~ 12:10 長期安定を目指した審美インプラント治療のストラテジー

佐藤 隆太 先生 SR デンタルクリニック

12:10 ~ 12:30 インプラント治療を成功に導くためには

古屋 克典 先生 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座

12:30 ~ 12:50 インプラント埋入位置と上部構造固定様式の違いが審美性に及ぼす影響

-上顎前歯部インプラント治療について-

上田 一彦 先生 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座

12:50 ~ 13:50 休憩 8階 展示ホールにて Buffet 形式で昼食

【シンポジウムⅡ】 インプラント治療におけるティッシュマネジメントと審美修復

座長：馬場 一美 先生 学術委員会委員長

13:50 ~ 14:10 下顎前歯部における軟組織相当部のマネジメント

浜口 潤也 先生 東京医科歯科大学大学院インプラント・口腔再生医学分野

14:10 ~ 14:30 Patient-Oriented Strategy からみた補綴設計と Tissue Management

佐藤 洋平 先生 鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター

14:30 ~ 15:30 インプラント審美修復における水平的・垂直的骨造成

上野 大輔 先生 上野歯科医院

15:30 ~ 16:30 審美領域の複数歯欠損症例における戦略的なインプラント配置

中田 光太郎 先生 岡山大学病院

16:30 ~ 17:00 全体質疑応答 座長：河相 安彦 先生 馬場 一美 先生

17:00 ~ 17:10 感謝状授与 市川 哲雄 理事長

閉会式 挨拶 渡邊 文彦 大会長, 黒岩 明弘 次期大会長

17:30 ~ 19:30 懇親会 日本歯科大学生命歯学部 8階 展示ホール

シンポジウム I

審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件

座長：河相 安彦 先生 （専門医制度委員会委員長）

シンポジスト

丹野 努 先生（医） ゆたか会 丹野歯科医院 栃木県小山市開業）
審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件の考察

佐藤 隆太 先生 （SR デンタルクリニック 東京都品川区開業）
長期安定を目指した審美インプラント治療のストラテジー

会員発表

古屋 克典 先生 （東京歯科大学）
インプラント治療を成功に導くためには

上田 一彦 先生 （日本歯科大学新潟生命歯学部）
インプラント埋入位置と上部構造固定様式の違いが審美性に
及ぼす影響 -上顎前歯部インプラント治療について-

審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件の考察

丹野 努

医) ゆたか会 丹野歯科医院

現在の歯科臨床においてインプラント治療は欠かせないものとなってきている。そして、1988年のトロント会議においても明言されているように、インプラント治療においては、その機能のみならず、審美性も満たさなくてはならない。インプラントの審美性を担保するものは、そのポジションと周囲の硬・軟組織の量であろう。

理想的な審美補綴を行うためには、インプラントの頬舌的な位置、近遠心的な位置、埋入深度、埋入角度などに細心の注意を払わなくてはならない。そして、硬軟組織の量が足りないと、将来的に重大な審美的な問題を引き起こす。

ただ、これまでに多くの文献において抜歯後、歯槽堤は相当量の吸収を起こすことが報告されている。そのため、前歯部のインプラント治療を成功に導くには、いかに組織を維持・増大し、十分な量を得るかが重要な鍵となる。現在、多くの組織造成法が開発され、組織が不足した状態においても、審美性を獲得できるようになった。ただ、現在の手法は、それぞれ長所と短所を有し、予知性や侵襲性などにおいて、まだまだ改善の余地があるといえる。

今回は、現在の審美部位におけるインプラント治療の問題点を整理するとともに、筆者が考える診断のポイント、新しい治療法を提案したい。

1999年 北海道大学歯学部 卒業

栃木県小山市開業

- ・5-D Japan 会員
- ・日本口腔インプラント学会 会員
- ・Academy of Osseointegration 会員
- ・ICOI Diplomate

長期安定を目指した審美インプラント治療のストラテジー

佐藤 隆太

SR デンタルクリニック

近年、インプラント治療においてはオッセオインテグレーションが獲得されると機能回復に大きく貢献できることと、中長期的な残存率が95%程度と良好な予知性が示されている。機能回復とは単に咬合や咀嚼だけではなく、患者の要望は見た目にも自然な仕上がりを求められる。インプラント治療における成功率という視点に置き換えても審美性の獲得は重要なパラメーターとして挙げられている。抜歯を伴うインプラント治療では治癒の過程で起こる歯槽骨の吸収による骨形態の変化を予測、コントロールしなければならない。審美領域におけるインプラント治療では欠損している歯牙および硬軟組織の量と周囲組織形態との調和程度や、その露出具合によって治療方針を変えていく必要がある。フルマウスリコンストラクションにおいては前述の項目に加え、咬合高径やリップサポート量の増減による顔貌の変化、咬合の変化に伴う顎運動への影響など、調和のとれた最終修復物を見据えた戦略的アプローチが必要となる。このように様々な項目に考慮して構築した審美性は一過性のものとしてはならず、長期に安定させることにも留意したい。連結上部構造製作時には不適合を最小限にする IAT（口腔内接着技法）を用いることで良好な経過を追っている経験を元に、本シンポジウムでは様々な治療要件を持ったシチュエーションの審美インプラント症例を理論的背景と照らし合わせて供覧したいと考えている。

2003年 東京歯科大学 卒業

2004年 アイ・ティー・デンタルクリニック（千葉県袖ヶ浦市）勤務

2010年 東京歯科大学大学院歯学研究科 修了

2013年 東京歯科大学口腔インプラント学講座 非常勤講師

2014年 SR デンタルクリニック（東京都品川区）開業

・日本口腔インプラント学会 専修医・専門医

インプラント治療を成功に導くためには

古屋 克典

東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座

インプラント治療が欠損修復の有効な治療オプションの一つとなり、その長期的な予後も多く報告されている。

インプラント治療において補綴物を理想的な形態に作るための条件の一つとして、インプラントを適切な位置と方向に埋入しなければならないことがあげられる。しかし、抜歯後に歯槽骨は吸収し、適切な位置（埋入深度、埋入方向）へのインプラント埋入が難しくなる事も少なくない。十分な骨量が得られない場合には自家骨を中心とした骨造成が行われてきたが、それには大きな外科的侵襲も必要となり、患者さんへの負担も強いられてきた。一方、それらを避ける方法として、既存骨へのインプラントの埋入が考えられてきたが、適切な位置へのインプラント埋入が行えないことも稀ではない。

近年、より強度の高いインプラントの開発によって、直径の細いインプラントの使用により骨量の少ない部位への適応も広がり、種々の問題も解決されてきている。

今回、患者さんの負担を可能な限り少なく、そして、その中で理想的な補綴物を作るためのインプラント埋入条件について述べる。

2004年 東京歯科大学 卒業

2005年 東京歯科大学水道橋病院 補綴科入局

2013年 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座 助教

2014年 東京歯科大学口腔インプラント学講座 助教

2017年 東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座 助教

- ・日本補綴歯科学会 専門医
- ・日本口腔インプラント学会 専門医

インプラント埋入位置と上部構造固定様式の違いが審美性に及ぼす影響 -上顎前歯部インプラント治療について-

上田 一彦

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座

歯科インプラント治療は、隣在歯を切削することなく欠損修復が可能であり、長期良好な予後も期待できることから今日、欠損修復法の有効な選択肢の1つとなっている。また患者の審美回復に対する要望も高まり、インプラント治療にもオールセラミックスの上部構造が臨床応用されている。特に機械的強度が高く審美性、生体親和性に優れるジルコニアは、CAD/CAM技術の向上と共に日増しに需要が高まっている。

固定性上部構造には、スクリューとセメント固定式が主に応用されているが、上顎前歯部修復では固定様式の違いに伴いインプラント埋入位置も異なってくる。セメント固定式の上部構造は、アバットメント上にクラウンを装着するため、アクセスホールを考慮する必要がなくインプラント埋入位置、方向の自由度は高い。一方、スクリュー固定式上部構造は固定用スクリューの着脱のためのアクセスホールが存在するため、審美障害を惹起させないように、インプラント埋入位置、方向に細心の注意を払う必要がある。このことは上部構造のエマージェンスプロファイルの形状にも影響する。

本講演では、上顎前歯部インプラント治療において上部構造固定様式の違いに伴うインプラント埋入位置、上部構造の設計が審美性にどのような影響を及ぼすかを、両固定様式の上部構造を用いた症例を提示、比較し皆様と共に考察したい。

1998年 日本歯科大学新潟歯学部 卒業

1999年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院臨床研修医 修了

2003年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科 修了

2004年 日本歯科大学新潟病院総合診療科 助手

2008年 日本歯科大学新潟病院総合診療科 講師

2013年 ドイツ ハイน์リッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ歯学部口腔外科 Guest dentist (2013年9月～10月)、ドイツ ルードヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン歯学部補綴科 Guest researcher (2013年11月～2014年10月)

2015年 日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 医長 准教授

2017年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座 准教授

・日本補綴歯科学会 専門医

・日本口腔インプラント学会 専門医・代議員

シンポジウムⅡ

インプラント治療におけるティッシュマネージメントと審美修復

座長：馬場 一美 先生 （学術委員会委員長）

若手発表

浜口 潤也 先生 （東京医科歯科大学）

下顎前歯部における軟組織相当部のマネージメント

佐藤 洋平 先生 （鶴見大学歯学部）

Patient-Oriented Strategy からみた補綴設計と

Tissue Management

シンポジスト

上野 大輔 先生 （上野歯科医院 広島県安芸高田市開業）

インプラント審美修復における水平的・垂直的骨造成

中田 光太郎 先生 （岡山大学病院 京都府京都市開業）

審美領域の複数歯欠損症例における戦略的なインプラント配置

下顎前歯部における軟組織相当部のマネジメント

浜口 潤也

東京医科歯科大学大学院 インプラント・口腔再生医学分野

近年の前歯部領域のインプラント治療は、生物学的ならびに審美的に予知性の高い結果を得ている。インプラントにおいて良好な審美性を獲得するには、いくつかの基準の達成が求められる。まず、理想的な歯冠形態を実現するための正しい位置へのインプラント埋入、そして、インプラントを支持する十分な硬組織ならびに軟組織の獲得が必要である。また、歯の形態や歯肉のフェノタイプ、欠損歯数、残存歯槽骨量によって、術式の難易度は大きく異なるとともに、リップラインや患者の審美的要求度に応じた治療結果が求められる。さらに、周囲組織への生物学的影響の考慮に加えて、長期的な安定性を保証する適正な上部構造の設計や材料の選択が必要である。従って、術前の綿密な診査、詳細な治療計画立案と治療結果の予測に対する患者との情報共有が重要である。

これらのスキームに従って、上顎前歯部では審美性に優れた結果が多く報告されているが、その多くは組織増生を応用した歯周外科的アプローチに基づいている。しかし、下顎前歯部においては、解剖学的な制約により理想的な位置へのインプラント埋入が困難となる場合が多い。加えて同部位に対する硬組織及び軟組織の増生術式に関する有力なエビデンスは少なく、上顎前歯とは異なった治療オプションが必要と考えられる。

そこで今回、下顎前歯部複数歯欠損に対する歯肉色材料の応用に基づく補綴的アプローチを報告したい。

2011年 東京医科歯科大学歯学部歯学科 卒業

2012年 東京医科歯科大学大学院部分床義歯補綴学分野 大学院研究生

2013年 東京医科歯科大学大学院インプラント・口腔再生医学分野 大学院研究生

Patient-Oriented Strategy からみた補綴設計と Tissue Management

佐藤 洋平

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座

鶴見大学歯学部附属病院インプラントセンター

前歯部欠損は審美領域と称されるだけに患者と術者ともに関心の中心は審美性の回復にある。歯の喪失によりほぼ全ての症例で周囲組織はボリュームを減ずる。従って理想的なポジションに歯冠を位置付ける補綴主導型インプラント治療では、よりティッシュマネージメントの重要性が増す。

どのような造成手法が有効か？という点に目を奪われがちであるが、最終的な補綴設計から立案される治療計画の立案が重要である。アウトカムが審美性であるならば、ある程度術者側から見た基準はあるにせよ、その成否は患者に決定される。患者側の要件を十分に考慮して治療戦略を立案する必要がある。患者が考える問題点をより具体化し、考える治療戦略から患者側が許容する侵襲程度なども加味して最終的な計画を決定する。場合によっては大規模な造成を避け補綴的解決を図る場合もあるだろう。

一方、結果の永続性を求める必要もあり、欠損補綴の治療手法としてインプラントを選択するならば満たしておくべき基準がある。健全なインプラント周囲組織をマネージメントすることは必須であり、その上で患者条件と理想的回復との間で妥協というよりも妥結させた治療計画が決定されるべきである。

診査時の問題点の抽出から治療法選択までの流れを中心に審美領域の患者中心的な戦略も考慮したティッシュマネージメントに関して考察したい。

2001年 鶴見大学歯学部 卒業

2005年 鶴見大学大学院歯学専攻 修了

2005年 鶴見大学歯科補綴第一講座 助手

2007年 鶴見大学歯科補綴第一講座 助教（職名変更のため）

2007年 Visiting Scientist, Texas A&M Health, Science Center, Baylor College of Dentistry,
Department of Biomaterials Science

2011年 鶴見大学有床義歯補綴学講座 助教（講座名変更のため）

2013年 鶴見大学有床義歯補綴学講座 講師

- ・日本補綴歯科学会 専門医・指導医・代議員,
疫学調査委員 (2013-2015), 学術委員幹事 (2015-2017), 編集委員幹事 (2017-)
- ・日本歯科審美学会 認定医, 学術講演委員会 (2017-)
- ・Editorial board member of Tanta Dental Journal (TDJ)

インプラント審美修復における水平的・垂直的骨造成

上野 大輔
上野歯科医院

歯科審美領域と考えられる前歯部・小臼歯部は、歯槽突起が薄いため、歯の喪失後に歯槽堤が水平的・垂直的に萎縮する。そのため、インプラント治療の際は機能に必要な骨量を確保することのみならず、審美的に良好な歯冠・粘膜形態を形成する目的で骨造成が行われることが多い。

この際、自家ブロック骨移植、骨再生誘導法、TIME Technique を用いた骨造成などが有効とされる。骨造成を行う上で重要なことは欠損形態・造成形態の評価を行い、適切な材料および術式の選択を行うことである。例えば周囲が骨壁に囲まれた抜歯窩のような内側性欠損では骨形成は非常に容易である。一方で水平性、垂直性に吸収した顎堤への外側性の骨造成は難易度が高くなる。この要因は母床骨と移植材の接触面積率が低下することや、移植材が口唇圧や舌圧などの組織圧に晒されることによって、骨形成や増生形態の維持が困難になるためと考えられる。また、移植部を被覆するために広範囲な粘膜伸展が必要となり、隣接する血管や神経の損傷に注意が必要となる。

本講演では歯槽堤萎縮症例における骨補填材料や術式の選択基準にフォーカスをあて、骨造成を成功させるために重要と考えられる技術的なポイントについて供覧する予定である。

- 2005年 愛知学院大学歯学部卒業，開業医勤務
 - 2007年 鶴見大学歯学部口腔顎顔面インプラント科 入局
 - 2009年 コネチカット大学再建科学講座補綴科・生体材料センター ITI スカラー
 - 2012年 鶴見大学歯学部附属病院口腔顎顔面インプラント科 助教
 - 2014年 愛知学院大学 歯学博士
 - 2015年 フライブルグ大学口腔顎顔面形成外科学講座 客員医師
神奈川歯科大学大学院インプラント・歯周病学分野 講師
鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座 非常勤講師
 - 2017年 上野歯科医院 勤務
日本歯科大学新潟病院口腔インプラント科 臨床講師
 - 2018年 神奈川歯科大学大学院インプラント・歯周病学分野 客員教授
- ・日本口腔インプラント学会 専門医
 - ・ITI フェロー

審美領域の複数歯欠損症例における戦略的なインプラント配置 STRATEGIC IMPLANT DISTRIBUTION IN MULTIPLE EXTENDED EDENTULOUS CASES OF ESTHETIC AREA

中田 光太郎
岡山大学病院

インプラント治療における審美性の追求は、多くのインプラントロジストの心を捉えて離さない。その理由は多くのファクターが互いに相関し、その一つでも欠けると場合によっては結果が大きく左右され理想とするゴールへたどり着けない難しさにある。審美的に重要な部位においては Zetu, Wang らの「**Esthetic Triangle**」の概念(2005)が示すように、補綴修復治療において天然歯、インプラントともに周囲組織をできうる限り保存し、必要な部位には硬組織および軟組織のマネージメントを積極的に行い、そのうえで高度な補綴の技術を応用できる事で初めて理想的な審美性は達成されうる。最終補綴物においては周囲組織を含めた天然歯の自然観を再現することが非常に重要である。軟組織を含めた機能・審美性の回復、獲得がより求められるようになってきた近年の潮流において、周囲の環境や最終補綴物と調和した量、形態を獲得する硬軟組織形成・増生術が必須のオプションとなっている。

今回はインプラント治療における審美領域の複数歯欠損症例において、インプラントの配置と硬軟組織増生について考察を加える。インプラントの配置は組織の垂直的な距離を維持・獲得する上で非常に重要であり、達成したい審美的ゴールへ向けて硬軟組織増生という観点から戦略的にどのような周囲組織のコントロールを行うのが適切であるかを検討する。

1990年 福岡県立九州歯科大学 卒業

1994年 医療法人社団洛歯会 中田歯科クリニック 開設

2009年 同 デンタルクリニックタカンナ 開設

- ・日本顕微鏡歯科学会 指導医
- ・日本臨床歯周病学会 認定医
- ・日本口腔インプラント学会 会員
- ・ITI (International Team for Implantology) Fellow
- ・AO (Academy Of Osseointegration) Active Member
- ・EAO Member (European Association for Osseointegration)

一公益社団法人日本補綴歯科学会 第4回補綴歯科臨床研鑽会プロソ'18 アンケート一

お手数をおかけいたしますが、日本補綴歯科学会の今後の補綴歯科臨床研鑽会のために、QRコードよりアンケートにご協力をお願いします。なお、QRコードでのご対応が難しい場合は、会場にございますアンケート用紙でご提出をお願いします。

第4回補綴歯科臨床研鑽会プロソ'18 アンケート一



シンポジウムⅠ「審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件」



シンポジウムⅡ「インプラント治療におけるティッシュマネージメントと審美修復」



(公社) 日本補綴歯科学会
専門医制度委員会